

「自己を見つめる」と「自己（人間として）の生き方を考える」の関係と展開の扱い方

道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

自己を見つめる

- 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分こととして感じたり、考えたりする。
- これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める。
- 自己理解を深める。

【道徳的価値に関わって多様な面から自分の現状認識を図る】

- ①特定の行為や行動に対する傾向性 例：人に親切にできたか、できなかったか。
- ②多様な場面での傾向性 例：遊ぶ時、学習する時、怪我した時などで親切にできたか、できなかったか。
- ③道徳的価値に関わる理解の程度
例：親切は、相手の状況によって対応が異なる場合があることを理解していたか、していなかったか。

自己（人間として）の生き方についての考えを深める

- 自己を見つめる過程で、同時に自己（人間として）の生き方についての考えを深めている。
【特にそのことを意識するために】



A【経験の想起を確実に行う：現状認識の強化】 ※道徳的価値観の形成

自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにする。

B【自分のよさや課題を認識する】

伸ばしたい自己を深く見つめる。

生き方の課題を考え、それを自己（人間として）の生き方として実現していく思いや願いを深める。

展開（後段）の学習活動

※児童生徒の発達段階や教材の内容などによって選択

◆「自己を振り返る」 （Aを重視する立場）

- ①特定の行為や行動に対する傾向性
- ②多様な場面での傾向性
- ③道徳的価値に関わる理解の程度
多様な面から自己との対話を確認に行う。

これまで、〇〇についてどのようでしたか。

道徳的価値の理解と自己の経験が結びつくことで
⇒生きて働く『道徳的価値観の形成』が図られる
⇒この過程で生き方についての考えが深まる

◆「自己を振り返り、生き方を考える」 （Aを重視しつつ、Bも視野に入れる立場）

- ①特定の行為や行動に対する傾向性
- ②多様な場面での傾向性
- ③道徳的価値に関わる理解の程度
上記を扱った後、次の事項を改めて考える。

- 自分が伸ばしたいところ
- 今の自分の課題
- 生き方への思いや願い

自分を振り返ってみて、
どのようなことを考え
ますか。